

長寿医療研究開発費 平成27年度 総括研究報告
(総合報告)

Zarit 介護負担尺度日本語版(J-ZBI)による
介護負担評価:標準化による有用性の向上 (25-25)

主任研究者 荒井由美子 国立長寿医療研究センター 長寿政策科学研究部 部長

研究要旨 (平成25~27年度)

Zarit 介護負担尺度日本語版の短縮版(J-ZBI_8)の有用性を更に向上させるために、1) 家族介護者における抑うつ症状を生ずる介護負担の閾値を算出すること、2) 介護負担得点の標準的な値を算出することを本研究の目的とし、T市在住で介護保険の居宅サービス給付を受けていた要介護高齢者及び、その主たる家族介護者に対し、大規模調査を行った。有効回答4,128名のデータを用いて分析した結果、1) J-ZBI_8における抑うつ症状の最適な閾値と、2) 介護負担得点の標準的な値を算出することができた。本研究により、Zarit 介護負担尺度日本語版の短縮版の有用性を更に高めることができたと考えられる。

さらに、認知症の原因疾患ごとに介護負担と認知症の重症度、認知症に伴う行動心理症状(BPSD)の関連を調べ、各疾患における介護負担の特徴を明らかにすることを目的とした。認知症の重症度と介護負担の関係を原因疾患ごとに検討した結果、アルツハイマー病(AD)では重症度が上がるにつれて徐々に介護負担が増大し、認知症が中等度の場合に介護負担が最も大きくなりその後が軽減する傾向がみられたが、レビー小体型認知症(DLB)では軽度の段階から介護負担が高く、重症度が上がっても負担が高いまま推移することを明らかになった。また、BPSDと介護負担の関連について、ADでは、PSMS($\beta = -0.103$)、IADL($\beta = -0.270$)に加えて脱抑制($\beta = 0.173$)、うつ($\beta = 0.169$)、興奮($\beta = 0.166$)、異常行動($\beta = 0.161$)、不安($\beta = 0.112$)が介護負担感と関連したが、DLBではIADL($\beta = -0.381$)、不安($\beta = 0.433$)、易刺激性($\beta = 0.252$)が介護負担と関連することが明らかになった。これらの結果は、今後急増する在宅ならびに施設介護を支える専門職にとって有用な知見となるものと思われる。

また、介護負担が高い家族介護者には、介護放棄や虐待など不適切処遇が認められやすい。訪問看護サービスの提供を受けている要介護高齢者とその家族介護者220組に対して、無記名のアンケート調査を行った。不適切処遇あり群(29組)は、なし群(191組)に比べ、介護者が配偶者である割合、および、J-ZBI、CES-Dの得点が高く、高介護負担の割合や抑うつの割合が高かった。多変量解析では高介護負担が、不適切処遇の有意な関連要因であった。

主任研究者

荒井 由美子 国立長寿医療研究センター 長寿政策科学研究部 部長

分担研究者

池田 学 熊本大学大学院生命科学研究部・神経精神医学分野 教授

鷺尾 昌一 聖マリア学院大学看護学部 教授

研究期間 平成25年4月1日～平成28年3月31日

A. 研究目的（平成 25～27 年度）

主任研究者らが開発した Zarit 介護負担尺度日本語版(J-ZBI)、及びその短縮版(J-ZBI_8)は、我が国において、最も頻用されている介護負担尺度である。本尺度の有用性を更に向上させるために、1) 家族介護者における抑うつ症状を生ずる介護負担の閾値を明らかにすること、2) 介護負担得点の標準的な値を算出すること、及び3) 介護負担と認知症の背景疾患及び重症度との関連を明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法（平成 25～27 年度）

介護保険制度下における居宅サービス利用者及び家族介護者に対して調査を実施し、J-ZBI_8 による大規模な介護負担評価を集積した家族介護者・介護負担大規模データベースを作成した(4,128 名)。本データベースを用いて、1) J-ZBI_8 における抑うつ症状の最適な閾値と、2) 介護負担得点の標準的な値を算出した。

また、認知症専門外来を受診した認知症の患者とその家族介護者を対象に神経心理検査と調査を実施し、1)認知症の原因疾患ごとに認知症の重症度と介護負担の関連を調べ、2)BPSD と介護負担の関連を明らかにし、各疾患における介護負担の特徴を明らかにした。

さらに、2013 年から 2015 年の間に訪問看護サービス利用の要介護高齢者とその家族介護者 220 組に対して、無記名のアンケート調査を行った。Zarit 介護負担尺度日本語版 (J-ZBI)、抑うつ尺度である the Center for epidemiologic studies depression scale (CES-D) を用いて、不適切処遇の関連要因を検討した。

（倫理面への配慮）

- ・ 研究対象者には、研究計画を口頭及び書面にて説明し、研究参加の同意を得た。なお、得られたデータを全てコード化し、本研究の目的以外には、使用しない旨、遵守した。

研究範囲が広範であるため、以下、分担研究ごとに、

A. 研究目的、B. 研究方法、C. 研究結果、D. 考察・結論
について報告する。

1. Zarit 介護負担尺度日本語版(J-ZBI)による介護負担評価:標準化による有用性の向上

(主任研究者：荒井 由美子)

A. 研究目的 (平成 25～27 年度)

主任研究者らが開発した Zarit 介護負担尺度日本語版(J-ZBI)、及びその短縮版(J-ZBI_8)は、我が国において、最も頻用されている介護負担尺度である。しかし、これまで、当該尺度を用いて介護負担を測定した場合における、家族介護者の抑うつ症状の閾値に関しては、当該尺度原版(英語版)の開発者である Zarit 自身が重要性を指摘しているにもかかわらず、世界的にも先行研究が寡少であった。そこで、本尺度の有用性を更に向上させるために、1) 家族介護者における抑うつ症状を生ずる介護負担の閾値を明らかにすること、2) 介護負担得点の標準的な値を算出することを本研究の目的とした。

B. 研究方法 (平成 25～27 年度)

T 市における介護保険の居宅サービス給付を受けていた要介護高齢者及び、その主たる家族介護者に対する自記式質問票調査により得られた、大規模な介護負担評価を集積した家族介護者・介護負担大規模データベースを作成した(4,128 名)。本データベースを用いて、1) 家族介護者の抑うつ症状の有病率と関連要因の検討、2) 家族介護者における抑うつ症状を生ずる介護負担の閾値の算出、3) 介護負担得点の標準的な値の算出を行った。検討にあたっては、the Center for Epidemiologic Studies Depression Scale (CES-D)日本語版を用いた。関連要因については、logistic regression analysis を用いた。

C. 研究結果 (平成 25～27 年度)

本研究により、家族介護者における抑うつ症状の有病率を明らかにすることができた(Arai Y, et al., Aging Ment Health 2014; 18(1): 81-91)。Logistic regression analysis により、家族介護者が同居していることが抑うつ症状の有意な関連要因の 1 つであることが明らかになったため(Arai, The 16th Congress of the International Psychogeriatric Association (IPA), Free Communication, 2013 October 4, Received the Best Presentation Award)、閾値算出にあたっては、利用者と同居している介護者に限定することとした。

Receiver Operating Characteristic analysis を用いて解析した結果、J-ZBI_8 における抑うつ症状の最適な閾値を算出することができた(Arai, Zarit. Int J Geriatr Psychiatry, 2014; 29(12): 1313-1315.)。

Zarit 介護負担尺度日本語版の短縮版(J-ZBI_8)得点の標準的な値を算出した。その結果、Zarit 介護負担尺度日本語版の短縮版 (J-ZBI_8) の標準的な値は、家族介護者の属性によって異なることが明らかとなった。

D. 考察と結論 (平成 25～27 年度)

本研究のように代表性のある大規模集団において、関連性を確認した研究は、国内外を通じて殆どみられなかった。本研究によって、これまでに小規模サンプルにおいて得られてきた知見が、代表性のある大規模サンプルにおいても、追試できることが明らかになった。

また、今般、Zarit 介護負担尺度日本語版の短縮版(J-ZBI_8)の、抑うつ症状の閾値を算出した。本研究結果は、J-ZBI_8 を、家族介護者の抑うつ症状の予防に資するツールにもなりうることを示唆するものである。

さらに、家族介護者の属性ごとの標準値が明らかになったことで、測定結果(介護負担得点)が同じでも、家族介護者の属性が異なる場合は、結果の解釈に注意する必要があることが示された。

本研究により、Zarit 介護負担尺度日本語版の短縮版の有用性を更に高めることができたと考えられる。

E. 健康危険情報 (平成 25～27 年度)

特記すべきことなし

【研究協力者】

水野洋子、野口知里 (国立長寿医療研究センター 長寿政策科学研究部)

2. 認知症における疾患別ならびに重症度別の介護負担に関する研究

(分担研究者：池田 学)

A. 研究目的 (平成 25～27 年度)

我が国は、今後より一層の高齢化が予想されており、認知症患者の数も増加するため、認知症患者を支える家族介護者への支援は今後ますます重要になるものと思われる。これまでに家族の介護負担は認知症患者の認知機能や行動心理症状 (behavioral and psychological symptoms of dementia: BPSD) と関連

することが報告されているが、認知症の原因疾患ごとに認知症の重症度と介護負担の関係について検討した研究は私見において存在しない。そこで、本研究では、1) 認知症の原因疾患ごとに認知症の重症度と介護負担の関連を調べることと、2) BPSD と介護負担の関連を明らかにし、各疾患における介護負担の特徴を明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法 (平成 25～27 年度)

熊本大学医学部附属病院神経精神科の認知症専門外来を受診した認知症の患者とその家族介護者(n = 694)を対象に神経心理検査と調査を実施した。認知症の重症度は Clinical Dementia Rating (CDR) を用い、介護負担は Zarit 介護負担尺度日本語版(J-ZBI)を用いて評価し、認知症の重症度と介護負担の関連を検討した。BPSD の評価には日本語版 Neuropsychiatric Inventory(NPI)を使用した。その他、認知機能の評価には Mini-Mental State Examination (MMSE)、認知症の重症度には Clinical Dementia Rating (CDR)、ADL には Physical Self-Maintenance Scale (PSMS)と Instrumental Activities of Daily Living (IADL)を用いた。

C. 研究結果 (平成 25～27 年度)

認知症の重症度と介護負担の関連について、AD の介護負担においては、認知症重症度のごく軽度 (CDR = 0.5) と軽度 (CDR = 1) ($P < 0.001$)、軽度と中等度 (CDR = 2) ($P < 0.001$) の間に統計的有意差が見られた。また、重度 (CDR = 3) はごく軽度との間においてのみ有意差が見られた ($P = 0.012$)。一方、DLB の家族においては、ごく軽度と軽度 ($P = 0.012$)、ごく軽度と中等度の間 ($P = 0.014$) に介護負担に有意差がみられた。血管性認知症 (VaD) では、ごく軽度と中等度の間で介護負担に有意差がみられた ($P = 0.023$)。

BPSD と介護負担感の関係を疾患ごとに調べるために、従属変数を J-ZBI の合計得点、独立変数を年齢、性別、教育歴、推定罹病期間、PSMS、IADL、MMSE、NPI の各下位尺度得点とした重回帰分析を行ったところ(n = 599)、AD では、PSMS($\beta = -0.103$)、IADL($\beta = -0.270$)に加えて脱抑制($\beta = 0.173$)、うつ($\beta = 0.169$)、興奮($\beta = 0.166$)、異常行動($\beta = 0.161$)、不安($\beta = 0.112$)が介護負担感と関連していた。一方、DLB において、重回帰分析を行ったところ介護負担と、IADL($\beta = -0.381$)、不安($\beta = 0.433$)、易刺激性($\beta = 0.252$)が関連することが明らかになった。

D. 考察と結論 (平成 25～27 年度)

認知症の重症度と介護負担の関係について認知症の原因疾患ごとに詳細に検

討した結果、DLBでは認知症が軽度の段階から介護負担が高く、重症度が上がっても介護負担が高いまま推移することが明らかになった。一方、ADでは重症度が上がるにつれて徐々に介護負担が増大していたが、認知症が中等度の場合に介護負担が最も大きくなり、その後は統計的有意ではないものの負担が軽減する傾向がみられた。以上のことから、DLBでは疾患の早期的段階から介護負担が増大するため、ADに比べて早い段階から家族に対するサポートを含めた対策を検討する必要性が示唆された。また、認知症の原因疾患により介護負担に関連するBPSDも異なることが明らかになった。特にADでは脱抑制や異常行動、うつ、不安、興奮など多様な症状が介護負担と関連するが、DLBにおいては不安と易刺激性が介護負担と関連することが明らかになった。

以上、本研究の結果から、認知症の原因疾患によって認知症の重症度と介護負担の増加は必ずしも一様でないことが明らかになった。また、各原因疾患において介護負担の増加と関係するBPSDも異なっていることから、認知症の初期の段階で正確な診断を行い、将来家族が抱えるものと思われる介護負担を予測しケアの方針をたてることは、介護負担を軽減するために極めて重要であることが示唆された。

E. 健康危険情報（平成25～27年度）

特記すべきことなし

【研究協力者】

松下正輝（熊本大学大学院 生命科学研究部附属 臨床医学教育研究センター）
小山明日香、石川智久、橋本衛（熊本大学大学院 生命科学研究部 神経精神医学分野）

3. 在宅で要介護高齢者を介護する家族介護者の不適切処遇の関連要因

（分担研究者：鷲尾 昌一）

A. 研究目的（平成25～27年度）

近年、急速に高齢化が進み、介護が必要な高齢者が増加する一方、一世帯あたりの人数の減少が進み、家族介護者の負担は増加している。不適切処遇の関連要因解明を目的に、在宅要介護高齢者と、その家族介護者を対象に調査を行った。

B. 研究方法（平成 25～27 年度）

2013 年から 2015 年の間に訪問看護サービス利用の要介護高齢者とその家族介護者 220 組に対して、無記名のアンケート調査を行った。介護負担は Zarit 介護負担尺度日本語版（J-ZBI）、抑うつ尺度である the Center for epidemiologic studies depression scale（CES-D）を用いた。J-ZBI の平均点は 33.3 ± 17.4 （標準偏差）であったため、51 点（平均+標準偏差）以上の 29 組を高負担群とした。

不適切処遇は上田の調査を参考に「1.無視・しゃべらない、2.わざと一人きりにしておく、3.感情的に傷つけることを言う、4.必要なお世話や介助をしない、5.思わず叩いたりつねったり蹴ったりしてしまう、6.部屋から出られないように閉じ込める、7.手や足をくくる・ベッドなどにしばる、8.介護を受けている方が利用したいと思っている保健福祉サービスを受けさせない、9.介護を受けている方の金品を勝手に使う」のいずれか一つ以上の回答があるものを「不適切処遇あり」とし、不適切処遇あり群（29 組）と、なし群（191 組）の比較を行った。統計解析には SAS を使用し、オッズ比と 95%信頼区間を求めた。p<0.05 を統計学的に有意とした。

C. 研究結果（平成 25～27 年度）

主介護者の特徴では、不適切処遇あり群は、なし群に比べ、配偶者である割合が高かった。また、あり群は、なし群に比べ、「高介護負担」の割合、「抑うつ」の割合が高く、介護状況では「被介護者を伴わず、外出できる」と答えた割合が高く、サービスの利用に関しては「近所の目が気になる」と回答した割合が高い傾向を示した。多変量解析では、お互いの要因を補正した結果、「高介護負担」（オッズ比=9.96）と「被介護者を伴わないで外出できる」（オッズ比=9.38）、の 2 つの要因が統計学的に有意な不適切処遇の関連要因として残った。

D. 考察と結論（平成 25～27 年度）

多変量解析では、お互いの要因を補正した結果、「高介護負担であること」と「被介護者を伴わないで外出できること」の 2 つの要因が統計学的に有意な不適切処遇の関連要因として残った。

高い介護負担は介護者の抑うつと関連しており、お互いに関連のある要因であるために、多変量解析では抑うつは有意な要因とならなかったと考えられる。一方、「被介護者を伴わないで外出できる」介護者に不適切処遇が認められる理由として、無視や介護放棄などが不適切処遇の項目に含まれるためではないかと考えられる。要介護高齢者の虐待を防ぐには介護負担を軽減するような支援が必要であると考えられた。

E. 健康危険情報（平成 25～27 年度）

特記すべきことなし

【研究協力者】

豊島泰子（四日市看護医療大学看護学部）

F. 研究発表

1. 受賞

平成 25 年度

Arai Y. Depression among family caregivers of community-dwelling older people who used services under the Long Term Care Insurance program: a large-scale population-based study in Japan (Free Communication). The 16th Congress of International Psychogeriatric Association (IPA), 2013 October 1-4 (Presentation: October 4), Seoul, Korea (Received the Award for the Best Presentation).

平成 27 年度

Arai Y. Potentially harmful behaviors may be predicted by a caregiver burden scale. The 9th International Congress of the Asian Society Against Dementia (ASAD), 2015 September 14-16 (Presentation: September 14) Kumamoto, Japan (Received the Poster Presentation Award).

2. 論文発表

平成 25 年度

- 1) 荒井由美子, 水野洋子. 介護負担と介護者支援：介護者への情報提供を中心に. 中島健二・天野直二・下濱 俊・富本秀和・三村 将, 編. 認知症ハンドブック. 東京：医学書院, 2013 : 427-433.
- 2) 荒井由美子, 新井明日奈, 水野洋子. 認知症高齢者と自動車運転－社会支援の観点から. 池田 学, 編. 脳とこころのプライマリケア 2 知能の衰え. 東京：シナジー, 2013 : 150-159.
- 3) 荒井由美子. 精神障害の現状と分類. 鈴木庄亮・久道 茂, 監修. 辻 一郎・小山 洋, 編. シンプル衛生公衆衛生学 2013. 東京：南江堂, 2013 : 313-325.
- 4) 工藤啓, 荒井由美子. 健康日本 21（第二次）地方計画について－加美町第Ⅱ期健康増進計画「げんき加美町 21」を支援の立場から－. 公衆衛生情報みやぎ 2013 ; 417 : 7-9.

- 5) 熊本圭吾, 荒井由美子. 高齢社会における希望の醸成. 老年精神医学雑誌 2013 ; 24(1) : 18-25.
- 6) Ikeda M, Mori E, Kosaka K, Iseki E, Hashimoto M, Matsukawa N, Matsuo K, Nakagawa M, on behalf of the Donepezil-DLB Study Investigators. Long-term safety and efficacy of Donepezil in patients with dementia with Lewy Bodies: Results from a 52-week, open-label, multicenter extension study. Dement Geriatr Cogn Disord (Epub ahead of print)
- 7) Yatabe Y, Hashimoto M, Kaneda K, Honda K, Ogawa Y, Yuuki S, Ikeda M. Efficacy of increasing donepezil in mild to moderate Alzheimer's disease patients who show a diminished response to 5 mg donepezil: a preliminary study. Psychogeriatrics 13 : 88-93, 2013
- 8) Hasegawa N, Hashimoto M, Yuuki S, Honda K, Yatabe Y, Araki K, Ikeda M. Prevalence of delirium among outpatients with dementia. International Psychogeriatrics 25 : 1877-1883, 2013
- 9) Ichimi N, Hashimoto M, Matsushita M, Yano H, Yatabe Y, Ikeda M. The relationship between primary progressive aphasia and neurodegenerative dementia. East Asian Archives of Psychiatry 23 : 120-125, 2013
- 10) Adachi H, Ikeda M, Komori K, Shinagawa S, Toyota Y, Kashibayashi T, Ishikawa T, Tachibana N. Comparison of the utility of the everyday memory test and Alzheimer's Disease Assessment Scale-Cognition part (ADAS-Cog) for evaluation of mild cognitive impairment (MCI) and very mild Alzheimer's disease. Psychiatry and Clinical Neurosciences 67 : 148-153, 2013
- 11) Honda K, Hashimoto M, Yatabe Y, Kaneda K, Yuki S, Ogawa Y, Matsuzaki S, Tsuyuguchi A, Tanaka H, Kashiwagi H, Hasegawa N, Ishikawa T, Ikeda M. The usefulness of monitoring sleep talking for the diagnosis of dementia with Lewy bodies. Int Psychogeriatrics 25 : 851-858, 2013
- 12) 豊島泰子, 大坪昌喜, 鷺尾昌一. 精神障がい者を介護する家族に対する訪問看護師による支援内容の検討. 日本精神保健看護学会雑誌 2013 ; 22(1) : 78-84.
- 13) 鷺尾昌一, 小浜さつき, 日高艶子, 福冨由尚, 原田英治, 藤澤伸光. 高齢者の摂食・嚥下障害と在宅ケア. 臨牀と研究 2013 ; 90(4) : 467-472.

平成 26 年度

- 1) Arai Y, Kumamoto K, Mizuno Y. Depression among family caregivers of community-dwelling older people who used services under the Long Term Care Insurance program: a large-scale population-based study in Japan. *Aging Ment Health* 2014; 18(1): 81-91.
- 2) Mizuno Y, Arai Y. Support measures to enhance motivation for older people with dementia: a nationwide survey of Japanese municipal governments. *IMJ* 2014; 21(2): 175-176.
- 3) Arai Y. Challenges in disseminating the findings of psychosocial research conducted in a non-English speaking country. *International Psychogeriatrics* 2014; 26(9): 1575-1576.
- 4) Arai Y, Zarit SH. Determining a cutoff score of caregiver burden for predicting depression among family caregivers in a large population-based sample. *Int J Geriatr Psychiatry* 2014; 29(12): 1313-1315.
- 5) Arai Y. Japan Breaks with Long Family Caregiving Tradition: New Long-Term Care (LTC) Insurance Scheme. In: Duvvuru J, Kalavar JM, Khan AM, Liebig PS, editors. *Global ageing care concerns and special perspectives*. New delhi: Kanishka Publishers & Distributors, 2014: 38-45.
- 6) 荒井由美子. アジア・太平洋地域における高齢者のメンタルヘルス向上のための心理社会的研究コンソーシアム (PROMOTE) : 日本における高齢者のメンタルヘルスに関する心理社会的研究 : 知見普及に係る課題. *Psychiatry Today* 2014 ; 34 : 22.
- 7) 荒井由美子. 国際的評価法の日本語版作成から応用までの道のり : Zarit介護負担尺度日本語版および短縮版. *CNS today* 2014 ; 4(3) : 22-23.
- 8) Hasegawa N, Hashimoto M, Koyama A, Ishikawa T, Yatabe T, Honda K, Yuuki S, Araki K, Ikeda M. Patient-related factors associated with depressive state in caregivers of patients with dementia at home. *Journal of the American Medical Directors Association* 15:371.e15-18
- 9) Fukuhara R, Ghosh A, Fuh JL, Dominguez J, Ong PA, Dutt A, Liu YC, Tanaka H, Ikeda M. Family history of frontotemporal lobar degeneration in Asia - an international multi-center research. *Int Psychogeriatr* 2014 [Epub ahead of print]
- 10) Matsushita M, Ishikawa T, Koyama A, Hasegawa N, Ichimi N, Yano H, Hashimoto M, Fujii N, Ikeda M. Is sense of coherence helpful in coping with caregiver burden for dementia? *Psychogeriatrics* 14 : 87-92, 2014
- 11) Sakamoto F, Shiraishi S, Yoshida M, Tomiguchi S, Hirai T, Namimoto T, Hashimoto M, Ikeda M, Uetani H, Yamashita Y. Diagnosis of dementia with Lewy

bodies: diagnostic performance of combined ¹²³I-IMP brain perfusion SPECT and ¹²³I-MIBG myocardial scintigraphy. *Ann Nucl Med* 28(3):203-211, 2014

- 12) 橋本 衛, 眞鍋雄太, 森 悦朗, 博野信次, 小阪憲司, 池田 学. 認知機能変動評価尺度 (Cognitive Fluctuation Inventory : CFI) の内容妥当性と評価者間信頼性の検討. *Brain and Nerve* 66 : 1463-1469, 2014
- 13) 宮川雄介, 橋本 衛, 池田 学. 軽度認知障害の長期予後. *臨床精神医学* 43 : 1475-1480, 2014
- 14) 池田 学. 前頭側頭型認知症または前頭側頭型軽度認知障害. *老年精神医学雑誌* 25 : 862-867, 2014
- 15) 池田 学. 認知症医療における基幹型認知症疾患医療センターの役割と課題. *老年精神医学雑誌* 25 : 738-743, 2014
- 16) 畑田 裕, 橋本 衛, 池田 学. 診断の進め方 *臨床と研究* 91 : 873-878, 2014
- 17) 池田 学. 認知症患者を支える地域ネットワーク –熊本モデルにおける実践を通して–. *精神神経学雑誌* 116 : 395-400, 2014
- 18) 小阪憲司, 池田 学. レビー小体型認知症に対する薬物療法. *精神医学* 56 : 191-197, 2014
- 19) Washio M, Arai Y, Mori M. Factors related to the depression among family caregivers of older people with disabilities who used home health care services in the metropolitan city of Hokkaido, northern Japan. *IMJ* 2014; 21: 263-267.
- 20) Toyoshima Y, Washio M, Miyabayashi I, Haruna S, Arai Y. Depression among Family Caregivers of the Psychiatric Patients with Visiting Nursing Services in Japan. *IMJ* 2014; 21: 1-4.
- 21) 豊島康子, 福田清香, 鷺尾昌一, 荒井由美子. 在宅で要介護高齢者を介護する家族介護者の介護負担. *臨床と研究* 2015 ; 92 : 343-347.

平成 27 年度

- 1) Arai A, Arai Y. Self-assessed driving behaviors associated with age among middle-aged and older adults in Japan. *Arch Gerontol Geriatr* 2015; 60(1): 39-44.
- 2) Mizuno Y, Arai Y. Drivers with dementia in Japan: required public support under strict legal restrictions. *J Am Geriatr Soc* 2015; 63(3): 611-612.
- 3) Mizuno Y, Arai Y. Is our society tolerant enough to give the necessary priority to vulnerable adults when they need mobility support? *J Am Geriatr Soc* (in press).
- 4) Arai Y. Long-term-care systems. In: World Health Organization. *World report on Ageing and Health*. Geneva, 2015: 127-155 (as an additional contributor as well as a peer reviewer).

- 5) 水野洋子, 荒井由美子. 認知症高齢者の外出・移動支援の現況および家族介護者から求められる支援の在り方. 老年精神医学雑誌 2015 ; 26(12) : 1388-1393.
- 6) Matsushita M, Pai MC, Jhou BS, Koyama A, Ikeda M. Cross-cultural study of caregiver burden for Alzheimer's disease in Japan and Taiwan: result from Dementia Research in Kumamoto and Tainan (DeReKaT). International Psychogeriatrics 28 :1-8 (Epub ahead of print)
- 7) Kashiwagi H, Kuroki N, Ikezawa S, Matsushita M, Ishikawa M, Kazuyuki Nakagome, Hirabayashi N, Ikeda M. Neurocognitive features in male patients with schizophrenia exhibiting serious violence: A case control study. Annals of General Psychiatry doi: 10.1186/s12991-015-0086-7. eCollection 2015
- 8) Cambell K, Szoeka C, Dennerstein L, Fujise N, Ikeda M, Tacey M. A comparison of Geriatric Depression Scale scores in older Australian and Japanese women. Epidemiology and Psychiatric Sciences 8 :1-9 (Epub ahead of print)
- 9) Ikeda M, Mori E, Iseki E, Katayama S, Higashi Y, Hashimoto M, Miyagishi H, Nakagawa M, Kosaka K. Adequacy of Using Consensus Guidelines for Diagnosis of Dementia with Lewy Bodies in Clinical Trials for Drug Development. Dement Geriatr Cogn Disord. 2015 Dec 2;41(1-2):55-67. [Epub ahead of print]
- 10) Sakai M, Ikeda M, Kazui H, Shigenobu K, Nishikawa T. Decline of gustatory sensitivity with the progression of Alzheimer's disease. International Psychogeriatrics 2015 [Epub ahead of print]
- 11) Fujise N, Abe Y, Fukunaga R, Nakagawa Y, Nishi Y, Koyama A, Ikeda M. Comparisons of prevalence and related factors of depression in middle-aged adults between urban and rural populations in Japan. J Affect Disord. 190:772-776, 2016
- 12) Shinagawa S, Honda K, Kashibayashi T, Shigenobu K, Nakayama K, Ikeda M. Classifying eating-related problems among institutionalized people with dementia. Psychiatry Clin Neurosci. 2015 Nov 10. doi: 10.1111/pcn.12375. [Epub ahead of print]
- 13) Inoue Y, Nakajima M, Uetani H, Hirai T, Ueda M, Kitajima M, Utsunomiya D, Watanabe M, Hashimoto M, Ikeda M, Yamashita Y, Ando, Y. Diagnostic Significance of Cortical Superficial Siderosis for Alzheimer's Disease in Patients with Cognitive Impairment. AJNR Am J Neuroradiol 2015 [Epub ahead of print]
- 14) Ikeda M*, Mori E, Iseki E, Katayama S, Higashi Y, Hashimoto M, Miyagishi H, Nakagawa M, Kosaka K. Adequacy of using consensus guidelines for diagnosis of dementia with Lewy bodies in clinical trials for drug development. Dement Geriatr Cogn Disord 41 : 55-67, 2015

- 15) Shinagawa S, Honda K, Kashibayashi T, Shigenobu K, Nakayama K, Ikeda M. Classifying eating-related problems among institutionalized subjects with dementia. *Psychiatry and Clinical Neurosciences* (in press)
- 16) Ito H, Hattori H, Kazui H, Taguchi M, Ikeda M. Integration psychiatric services into comprehensive dementia care in the community. *Open journal of psychiatry* 5: 129-136, 2015
- 17) Kai K, Hashimoto M, Amano K, Tanaka H, Fukuhara R, Ikeda M*. Relationship between eating problems and dementia severity in patients with Alzheimer's disease. *PLoS ONE* 10(8): e0133666. doi:10.1371/journal.pone.0133666
- 18) Mori E, Ikeda M, Nakagawa M, Miyagishi H, Yamaguchi H, Kosaka K. Effects of Donepezil on Extrapyrimal Symptoms in Patients with Dementia with Lewy Bodies: A Secondary Pooled Analysis of Two Randomized-Controlled and Two Open-Label Long-Term Extension Studies. *Dement Geriatr Cogn Disord* 40: 186-198, 2015
- 19) Hashimoto M, Ogawa Y, Yatabe Y, Ishikawa T, Fukuhara R, Kaneda K, Honda K, Yuki S, Imamura T, Ksazui H, Kamimura N, Shinagawa S, Mizukami K, Mori E, Ikeda M. Relationship between dementia severity and behavioral and psychological symptoms of dementia in dementia with Lewy bodies and Alzheimer's disease patients. *Dement Geriatr Cogn Disord Extra* 5: 244-52, 2015
- 20) Koyama A, Fujise N, Nishi Y, Matsushita M, Ishikawa T, Hashimoto M, Ikeda M. Suicidal ideation and related factors among dementia patients. *J Affect Disord* 178: 66-70, 2015
- 21) Mori E, Ikeda M, Nagai R, Matsuo K, Nakagawa M, Kosaka K. Long-term donepezil use for dementia with Lewy bodies: results from an open-label extension of phase III trial. *Alzheimer's Research & Therapy* 2015 Feb 3;7(1):5. doi: 10.1186/s13195-014-0081-2.
- 22) Ikeda M*, Mori E, Matsuo K, Nakagawa M, Kosaka K. Donepezil for dementia with Lewy bodies: a randomized placebo-controlled, confirmatory phase III trial. *Alzheimer's Research & Therapy* 2015 Feb 3;7(1):4. doi: 10.1186/s13195-014-0083-0.
- 23) Fujito R, Kamimura N, Ikeda M, Koyama A, Shimodera S, Morinobu S, Inoue S. Comparison of driving behaviors between individuals with frontotemporal lobar degeneration and those with Alzheimer's disease. *Psychogeriatrics* 2015 Mar 3. doi: 10.1111/psyg.12115. [Epub ahead of print]
- 24) Tanaka H, Hashimoto M, Fukuhara F, Ishikawa T, Yatabe Y, Kaneda K, Yuuki S, Honda K, Matsuzaki S, Tsuyuguchi A, Hatada Y, Ikeda M*. Relationship between

dementia severity and behavioral and psychological symptoms in early-onset Alzheimer's disease. *Psychogeriatrics* 2015 Mar 3. doi: 10.1111/psyg.12108. [Epub ahead of print]

- 25) Hashimoto M, Sakamoto S, Ikeda M. Clinical features of delusional jealousy in patients with dementia. *J Clin Psychiatry* 76 : 691-695, 2015
- 26) Matsuzaki S, Hashimoto M, Yuuki S, Koyama A, Hirata Y, Ikeda M. The relationship between Post-stroke depression and physical recovery. *J Affect Disord* 176: 56-60, 2015
- 27) Kawahara K, Jono T, Nishi Y, Ushijima H, Ikeda M. Effects of Testosterone therapy to bipolar disorder with Klinefelter syndrome. *Gen Hosp Psychiatry* Mar-Apr;37(2):192.e1-2, 2015
- 28) 佐々木 博之, 松本 武士, 濱元 純一, 弟子丸 元紀, 池田 学. 児童・青年期のうつ病性障害 49 例の症状経過に関する臨床研究. *精神科治療学* 30 : 1649-1655, 2015
- 29) 清水秀明, 銚石和彦, 豊田泰孝, 小森憲治郎, 池田 学. 鏡現象を呈した大脳皮質基底核症の 1 例. *精神医学* (印刷中)
- 30) 植田 賢, 石川 智久, 前田 兼宏, 柏木 宏子, 遊亀 誠二, 福原 竜治, 池田 学. アルツハイマー病との鑑別を要した左前部視床梗塞後の軽度認知障害例. *精神医学* (印刷中)
- 31) 赤城真理子, 遊亀誠二, 日高洋介, 梶尾勇介, 柏木宏子, 池田 学. 発熱後に精神症状や認知機能低下を伴った抗NMDA受容体脳炎が疑われた一例. *九州神経精神医学雑誌* (印刷中)
- 32) 柏木宏子, 藤瀬 昇, 大森まゆ, 渡邊雅文, 立花直子, 池田 学. 治療抵抗性のうつ病として入院した概日リズム睡眠-覚醒障害群の 1 例. *九州神経精神医学* 60 : 148-153, 2015
- 33) 品川俊一郎, 矢田部裕介, 繁信和恵, 福原竜治, 橋本 衛, 池田 学, 中山和彦. 本邦におけるFTDに対するoff-label処分の実態について. *Dementia Japan* 29 : 78-85, 2015
- 34) Washio M, Takeida K, Arai Y, Shang E, Oura A, Mori M. Depression among family caregivers of the frail elderly with visiting nursing services in the northernmost city of Japan. *IMJ* 2015; 22: 250-253.
- 35) Toyoshima Y, Washio M, Horiguchi I, Yamasakai R, Onimaru M, Nakamura K, Miyabayashi I, Arai Y. Undue concern for others' opinions is related to depression among family caregivers of disabled elderly in southern Japan. *IMJ* 2016; 23: 30-33.

- 36) 鷺尾昌一, 野上裕子, 元山彩織, 山崎律子, 堀口逸子, 豊島泰子. 介護保険法改正と在宅で要介護高齢者を介護する家族介護者の介護負担. 臨牀と研究 2015 ; 92 : 1311-1316.

3. 学会発表

平成 25 年度

- 1) Arai Y. Psychosocial Research about mental health of older people in Japan: Challenges in disseminating findings (Symposium). The 16th Congress of International Psychogeriatric Association (IPA) (Invited lecture), 2013 October 1-4 (Presentation: October 2), Seoul, Korea.
- 2) Mizuno Y, Arai Y. Measures for enhancing the mobility of older people and people with dementia in Japan. The 16th Congress of International Psychogeriatric Association (IPA), 2013 October 1-4 (Presentation: October 2), Seoul, Korea.
- 3) 荒井由美子. 認知症患者の家族介護者の介護負担と情報提供による介護者支援. 第 32 回日本社会精神医学会 イブニングセミナー (招待講演), 2013 年 3 月 7-8 日 (発表 7 日), 熊本市.
- 4) 荒井由美子. 認知症高齢者の自動車運転を考える: 社会支援の視点から(シンポジウム). 第 16 回日本病院脳神経外科学会 (招待講演), 2013 年 7 月 21 日, 広島県福山市.
- 5) 水野洋子, 荒井由美子. 軽度認知症高齢者による相乗り・乗り合い交通の利用可能性に係る地方自治体の見解. 第 28 回日本老年精神医学会, 2013 年 6 月 4-6 日 (発表 6 日), 大阪市.
- 6) 池田 学 シンポジウム: 褥瘡の危険因子を作らないための取り組み 「認知症の予防について」 第 15 回 日本褥瘡学会学術集会, 神戸, 7 月 19 日, 2013
- 7) 池田 学 基調講演「若年性認知症を地域で支えるために」 第 16 回 日本老年行動科学会, 松山, 8 月 31 日, 2013
- 8) 池田 学 シンポジウム: 認知症の病態と治療薬の動向 「レビー小体型認知症と前頭側頭葉変性症の病態と治療」 第 23 回日本臨床精神神経薬理学会・第 43 回日本神経精神薬理学会 合同年会, 宜野湾市, 10 月 24-26 日, 2013
- 9) Toyoshima Y, Washio M, Arai Y. Factors related to depression among family caregivers of psychiatric patients who used home-visiting nursing services in Japan. The 5th International Conference on Community Health Nursing Research, 2013 March 13-14 (Presentation: March 14), Edinburgh, UK.

- 10) 大浦麻絵, 森 満, 和泉比佐子, 安田誠史, 宮野伊知郎, 鷺尾昌一. 在宅療養者を介護する家族介護者の抑うつ: ベースライン調査の結果より. 第72回日本公衆衛生学会総会, 2013年10月23-25日(発表23日), 三重県津市.
- 11) 豊島泰子, 春名誠美, 鷺尾昌一. 精神障がい者を介護する家族の抑うつと訪問看護師の支援内容の検討-2つの調査結果から-. 第72回日本公衆衛生学会総会, 2013年10月23-25日(発表23日), 三重県津市.

平成26年度

- 1) Arai Y. When driving capacity is lost: a support manual for carers (plenary lecture). 1st Annual International Capacity Conference, 2014 September 20, Wanchai, Hong Kong.
- 2) Arai Y., Noguchi C, Ueda T. Concurrent validity of a family caregivers self-reported potentially harmful behavior (PHB) towards their care recipients. 1st Annual International Capacity Conference, 2014 September 20, Wanchai, Hong Kong.
- 3) 水野洋子, 荒井由美子. 認知症高齢者の運転を考える家族介護者支援マニュアルを通じた支援の方向性に係る検討: 全国市区町村による意見及び活用状況に着目して. 第56回日本老年社会科学学会大会, 2014年6月7-8日(発表7日), 岐阜県下呂市.
- 4) 水野洋子, 荒井由美子. 認知症要支援者の自動車運転に係る現況及び外出に関する自治体への要望. 第29回日本老年精神医学会, 2014年6月12-13日(発表13日), 東京都.
- 5) 野口知里, 荒井由美子, 上村直人, 今城由里子. 認知症高齢者の自動車運転を考える家族介護者に対する支援マニュアルの効果の検討. 第73回日本公衆衛生学会総会, 2014年11月5-7日(発表5日), 栃木県宇都宮市.
- 6) 水野洋子, 荒井由美子. 一人暮らしの認知症要支援者に対する外出・移動支援: 非同居家族の見解に着目して. 第73回日本公衆衛生学会総会, 2014年11月5-7日(発表6日), 栃木県宇都宮市.
- 7) (Plenary lecture) Ikeda M. Fronto-temporal dementia. 8th Congress of Asian Society Against Dementia, Colombo, Sri Lanka, November 14-16, 2014
- 8) (Symposium) Ikeda M. Symposium: Epidemiology & Risk. Epidemiology of early-onset dementia. 8th Congress of Asian Society Against Dementia, Colombo, Sri Lanka, November 14-16, 2014
- 9) (Symposium) Ikeda M. Symposium: Young onset dementia: need for more research. Care situations for young onset dementia in Asian countries.

International Psychiatric Association 2014 International Meeting, Beijing, China, October 23-26, 2014

- 10) Ikeda M (招待講演) Keynote address. Overview on the diagnosis and management of frontotemporal lobar degeneration. 9th Annual Meeting of Taiwanese Society of Geriatric Psychiatry, Chung Shan Medical University, Taichung city, Taiwan, March 16, 2014
- 11) Ikeda M (招待講演) ASAD Joint Symposium on Dementia. Frontotemporal Dementia in Asia 14th Asian & Oceanian Congress of Neurology, The Venetian Macao, Macao, China, March 2-5, 2014
- 12) Hashimoto M, Fukuhara R, Ichimi I, Ogawa Y, Ikeda M. The relationship between abstract attitude and stereotyped behavior in patients with frontotemporal lobar degeneration (FTLD). 9th International Conference on Frontotemporal Dementias, Vancouver Canada, October 23-26, 2014.
- 13) 池田 学. 基調講演：認知症の医療連携. 日本医療マネジメント学会 第12回佐賀支部学術集会, 嬉野市, 2月22日, 2014
- 14) (シンポジウム)池田 学. シンポジウム：び慢性白質障害の臨床的鑑別と病理. 精神症状から鑑別する白質障害. 第55回日本神経学会総会, 福岡市, 5月24日, 2014
- 15) (教育セミナー) 池田 学. 日本神経学会第2回メディカルスタッフ教育セミナー：認知症の病態の理解に基づく合理的なケア・リハビリテーション. 前頭側頭葉変性症の病態とケア・リハビリテーション. 第55回日本神経学会総会, 福岡市, 5月24日, 2014
- 16) (シンポジウム)池田 学. シンポジウム：精神疾患の医療計画への追加の意義と効果—地域医療連携の必要生と可能性と効果の観点から考察する. 認知症と地域連携. 第110回日本精神神経学会学術総会, 横浜市, 6月26-28日, 2014
- 17) (シンポジウム)池田 学. シンポジウム：認知症と高次脳機能障害. 認知症の医療連携 —熊本モデルの概要と今後の課題—. 第64回日本病院学会, 高松市, 7月3-4日, 2014
- 18) (基調講演) 池田 学. 「認知症疾患医療センターの現状と今後の課題」. 第2回認知症疾患医療センター全国研修会, 砂川市, 9月13日, 2014
- 19) (市民公開講座) 池田 学. 心の病気の臨床 求められていること、脳科学にできること. 「認知症の臨床：求められていること、脳科学にできること」. 第37回日本神経科学会, 京都, 9月21日, 2014
- 20) (特別講演) 池田 学. 「認知症の人と家族を支える地域連携」. 第20回全国の集いin岡山 2014, 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク, 9

月 14-15 日, 岡山市

- 21) (特別講演) 池田 学. 認知症の初期発見からケア推進まで～認知症独居高齢者をどう支えるか～「認知症の治療と予防のための地域連携 -熊本モデルを中心に-」. 第 4 回認知症予防学会, 江戸川区, 9 月 27-28 日, 2014
- 22) (パネリスト) 池田 学. 「認知症の治療と予防のための地域連携 -熊本モデルを中心に-」. 第 15 回介護保険推進全国サミット in くまもと, 熊本, 10 月 30-31 日, 2014
- 23) (市民公開講座) 池田 学. 認知症の予防・治療・介護. 「認知症の予防・治療・介護と地域連携」. 第 73 回日本公衆衛生学会, 宇都宮, 11 月 7 日, 2014
- 24) (シンポジウム) 池田 学. 認知症予防とケア-適時適切な支援の提供. 「認知症の地域連携とアウトリーチ」. G7 Dementia Summit Legacy Event, 東京, 11 月 5-6 日 東京
- 25) (シンポジウム) 池田 学. シンポジウム. 「認知症の言語症状を徹底的に討論する」. 第 38 回日本高次脳機能障害学会学術総会, 仙台, 11 月 28-29 日, 2014
- 26) (教育講演) 池田 学. 「前頭側頭葉変性症」. 第 33 回日本認知症学会, 横浜, 11 月 29-31 日, 2014
- 27) 鷺尾昌一, 豊島泰子, 荒井由美子. 訪問看護サービス利用高齢者の家族介護者の介護負担. 第 73 回日本公衆衛生学会, 2014 年 11 月 5-7 日 (発表 6 日), 栃木県宇都宮市.
- 28) 豊島泰子, 鷺尾昌一. 訪問看護サービスを利用する要介護高齢者の家族の介護負担内容の検討. 第 73 回日本公衆衛生学会, 2014 年 11 月 5-7 日 (発表 6 日), 栃木県宇都宮市.

平成 27 年度

- 1) Arai Y. The Long-Term Care insurance in Japan: the past and the present (Symposium). The 9th International Congress of the Asian Society Against Dementia (ASAD), 2015 September 14-16 (Presentation: September 15), Kumamoto, Japan.
- 2) Arai Y. Caregiver burden scales and public health: using the original and short versions of the Zarit Burden Interview (J-ZBI and J-ZBI_8) (Symposium). The 9th International Congress of the Asian Society Against Dementia (ASAD), 2015 September 14-16 (Presentation: September 15), Kumamoto, Japan.
- 3) Arai Y. Driving capacity and dementia: a support manual for caregivers in Japan (Invited lecture). Hong Kong Psychogeriatric Association (HKPGA) Capacity

Conference cum Annual General Meeting 2015, 2015 December 5, Kowloon, Hong Kong.

- 4) Mizuno Y, Arai Y. Needed public support for adult “persons requiring support” who continue to drive. The 9th International Congress of the Asian Society Against Dementia (ASAD), 2015 September 14-16 (Presentation: September 14) Kumamoto, Japan.
- 5) 荒井由美子. 認知症高齢者の自動車運転を考える. 日本認知症ケア学会第49回教育講演, 2015年9月5日, 大阪市.
- 6) 水野洋子, 荒井由美子. 認知症要支援者と同居する家族の介護に対する見解の検討. 第30回日本老年精神医学会, 2015年6月12-14日(発表13日), 横浜市.
- 7) 水野洋子, 荒井由美子. 要支援者の自立した生活に資する外出・移動支援の検討において留意すべき課題: 自動車の運転を継続している要支援者の家族の見解に着目して. 第57回日本老年社会学会大会, 2015年6月12-14日(発表13日), 横浜市.
- 8) 水野洋子, 荒井由美子. 運転免許を返納した独居要支援者の外出・移動支援: 市区町村に対する非同居家族の要望. 第74回日本公衆衛生学会, 2015年11月4-6日(発表6日), 長崎市.
- 9) 野口知里, 荒井由美子. 栄養状態の異なる家族介護者の介護負担・抑うつ症状の比較. 第74回日本公衆衛生学会, 2015年11月4-6日(発表6日), 長崎市.
- 10) (招待講演) Ikeda M. Symptomatology and therapeutic strategies of dementia with Lewy bodies Department of National Cheng Kung University, Tainan, Taiwan, November 23, 2015
- 11) (S) Ikeda M. Disorders of appetite, eating and swallowing in the dementias The WPA International Congress, Taipei, Taiwan, November 18-22, 2015
- 12) (S) Ikeda M. Outreach interventions in the Kumamoto dementia care model. The WPA International Congress, Taipei, Taiwan, November 18-22, 2015
- 13) (S) Ikeda M. Symposium: Impact of FTD on patients and carers. Outreach interventions for FTD patients and Caregivers. Asia Pacific FTD and MND Meeting, Sydney, Japan, October 8-9, 2015
- 14) (S) Ikeda M. Symposium: Neuropsychiatric Diseases and Vascular Factors. Association of small vessel disease with neuropsychiatric symptoms in patients with Alzheimer’s disease. 7th World Congress of the International Society for Vascular Behavioural and Cognitive Disorders, Tokyo, Japan, September 16-19, 2015

- 15) (S) Ikeda M. Dementia and driving. Driving in people with dementia in Japan. International congress of the 17th Zeelandia Symposium on Behavioral Neuroscience, Tainan, Taiwan, June 27-28, 2015
- 16) (S) Ikeda M. Tainan-Kumamoto Dementia symposium: the progress of dementia care model. Kumamoto dementia care model. International congress of the 17th Zeelandia Symposium on Behavioral Neuroscience, Tainan, Taiwan, June 27-28, 2015
- 17) 池田 学 「前頭側頭型認知症とレビー小体型認知症の症候学と治療戦略」第29回日本医学会総会，東京，4月11日-13日，2015
- 18) 池田 学 臨床リレーセッション 認知症と歯科治療 「認知症患者にみられる食行動異常」第124回日本補綴歯科学会，大宮，5月29日-31日，2015
- 19) 池田 学 第49回 日本作業療法学会 公開講座 科学的なケアを実践できる社会づくり 基調講演「認知症の科学的ケアにおける作業療法士への期待」第49回日本作業療法士学会，神戸，6月19日-21日，2015
- 20) 池田 学 新たに特定疾患に指定された神経変性疾患「FTLD」 「神経変性疾患領域における基盤的調査研究」班 平成27年度ワークショップ，東京，7月24日，2015
- 21) (S) 池田 学 シンポジウム DSM-5の神経認知領域から精神疾患を読み解く 「認知症における神経認知障害」第35回日本精神科診断学会，札幌，8月6-7日，2015
- 22) (教育講演) 池田 学 前頭側頭型認知症の臨床と最近の話題」 第5回認知症予防学会，神戸，9月26-27日，2015
- 23) (S) 池田 学 シンポジウム 前頭側頭葉変性症と紛らわしい病態 「難病指定からみたFTLD」 第39回日本高次脳機能障害学会，東京，12月10-11日，2015
- 24) 今村桃子，鷺尾昌一．訪問看護サービス利用高齢者の家族介護者の介護負担．第74回日本公衆衛生学会総会，2015年11月4-6日（発表6日），長崎県長崎市．
- 25) 鷺尾昌一，豊島泰子，荒井由美子．要介護高齢者の家族介護者の主観的健康度に影響を与える要因．第17回日本健康支援学会学術大会，2016年2月27-28日（発表27日），愛知県日進市．

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得、2. 実用新案登録、3. その他
特記すべきことなし